

未来の子どもたちに残したいマチへ マチごとエコタウン所沢

第31号



環境会報

所沢市環境推進員連絡協議会

自然に寄りそった都市環境は、みんなで

「動け所沢、忘れないぞ3・11」

所沢市環境推進員連絡協議会 会長 毛利 吉成



「エコタウン所沢」をみんなで築いていくためのきっかけにもなった東日本大震災は、7年が経過、自然の脅威と畏怖の念をあらためて呼び覚まされます。

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。日頃、健康で快適な潤いのある生活環境をつくることに熱意と識見を有する1,119名の皆様は、環境推進員として行政と市民をつなぐ強力な地域の環境リーダーとしてご活躍に御礼申し上げます。

また、11地区環境推進員協議会会長並びに役員の皆様方におかれましては、当連絡協議会の事業運営にご指導ご鞭撻をいただき推進員並びに地域住民の理解に向けての情報発信等、おしみなご協力をいただいております。

おかげさまで、平成29年度におきましては、推進員皆様のご協力のもと円滑に推移出来ました。特に今年度は、「人と人」「人と自然」との絆で、未来の子どもを育む、マチごとエコタウン所沢構想の基本理念に込められた所沢市の想いを表現していく実践活動です。

その基本方針でもある「エネルギー資源を大切に」「水・みどりの保全・創出」「資源化に

向けての行動をとおしての「もったいないの心」の定着」などの取り組みに御理解をいただき環境への配慮を得る為の環境情報などを地域に提供し円滑な施策展開に協力する事が出来ました。

さらに、不用となった携帯電話などの小型家電製品に含まれている金属を「都市鉱山」と見立て東京オリンピック・パラリンピックの金・銀・銅のメダルにしていく、所沢市の「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」にも協力、市民の皆さまへの周知や協力活動も今年度の新たな視点での資源化に向けて活動として取り組んだところでございます。

今後も、所沢市環境推進員連絡協議会は、所沢市が推進していこうとしている環境施策の展開を個々の地域環境コミュニティ活動をとおして「もったいないの心」を醸成し、ものを大切にしていける質の高い市民環境モラルの構築と過度な資源依存に頼ることなく、自然に寄りそったライフスタイルの見直しをし転換していくことが東日本大震災で得た教訓や気付きを「動け所沢、忘れないぞ3・11」の言葉を形にしていく事と思っております。

どうか推進の一翼を担いその実現に向けてご理解のうえ卓越した行動力のある皆様のご協力をお願い申し上げます。

歩きたばこ等防止啓発キャンペーン

所沢地区 会長 小泉 英治



所沢地区では、毎年7月と11月に実施している「歩きたばこ等防止啓発キャンペーン」において、啓発を担当する環境推進員用の『ベスト』（通行人に分かりやすいようにとの目的で、昨年度と今年度の2回

に分けて作製）を着用し活動を行っています。

これまでは、啓発品のティッシュ・携帯灰皿を配るのに、中々受け取っていただけませんでした。ベストに「歩きたばこ等防止」の文字が入っていることから、啓発キャンペーンの趣旨が明確になったため気持ちよく受け取っていただけるようになりました。

また11月の活動時から、担当する所沢駅西口・航空公園駅西口・西所沢駅の人員配置を見直し、所沢駅西口の人数を増員して行うことによりスムーズな啓発活動が出来ています。

ごみ収集車両の火災が多発しています

資源循環推進課



平成30年に入りまして、ごみ収集車の車両火災が以下の3件発生しております。(平成30年1月25日現在)

○1月8日(月)山口地区にて、小型家電製品のごみ収集時に、混入していたモバイルバッテリーが発火。

○1月12日(金)林地区にて、破碎ごみ類のごみ収集時に、混入していた使い捨てライターから漏れたガスに引火。

○1月16日(火)北中地区にて、破碎ごみ類の収集時に、混入していたスプレー缶から漏れた可燃性のガスに引火。

3件とも、原因は適正に分別されていないごみが混入していたことによります。ごみの適正な分別は、安全・適正な収集運搬・処分だけでなく、再生利用にもつながります。

ごみの分別案内については、冊子『家庭の資源とごみの分け方・出し方』や、スマートフォン用ごみ分別アプリ「わけトコっ!」を用意しております。ぜひ、ごみの適正な分別について、ご協力をよろしくお願いします。

環境講演会「環境問題の今」

並木地区 ツン 郁子



講演日の1月25日は東京都心で48年ぶりに氷点下4度を観測したとても寒い日でした。会場のミューズ周辺にはまだ沢山雪が残っているなか、

大勢の方が聴講に来ていました。講師の北野大先生は、弟・北野武さんのお話も交えながら約1時間半にわたり、先生曰く『大学講義レベルの内容』をわかりやすく丁寧に問題も出しながら、最後まで聴衆を惹きつけ説明してくださいました。

中でも印象深かった内容を上げますと

- 今地球上で行われている『環境破壊』が『資源の枯渇』を招き、結果として文明が崩壊する恐れがあるという事を示す『イースター島の教訓』。
- 地球環境問題に取り組むうえで『南北問題』これに関して、二酸化炭素排出量の『国ごとの割合(中国が約28%、米国約16%、日本約3.6%)』と『国民一人あたりの年間排出量(米国16.4トンで中国6.9トンの二倍以上、日本は9.5トン)』という数値が出てきました。先進国対途上国の間の問題がよくわかりました。人間も呼吸で二酸化炭素を出します。
- NIMBY (Not In My Back Yard)、つまりは『施設の必要性は認めるが、自分達の居住地域には建てないでくれ』という心理が環境問題にも関わってくるということ。

• 持続可能な社会づくりを目指すために、『低炭素社会』『循環型社会』『自然共生社会』を進めていく必要があるということ。

• 分別回収の大切さ 混ぜればごみ、分別すれば資源

• 温暖化対策(和の知恵) 打ち水、もったいない、緑のカーテン

講演の最後に、学長をされている秋草学園短期大学が所沢市と協力して取り組んでいる『都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト』のお話。その中で携帯電話1トンの金含有量は280~300グラムもあり、環境破壊に繋がる鉱山での採掘よりも非常に効率がいいのだ、という話がありました。帰宅後、早速子どものおもちゃとなっていた古い携帯電話を集めました。『それ どうするの?』と聞いてきた息子に『携帯電話からオリンピックのメダルを作るんだよ』と説明をしました。



環境推進員視察研修会に参加して 私たちは無駄に使っていることはないか？

松井地区 越阪部 眞



今回は、所沢市の上下水道について学ぶため大久保浄水場と荒川右岸下水道事務所を視察させていただきました。

私たちが毎日利用しております水道水は利根川から荒川へと流れ、そして大久保浄水場で浄化処理されて「きれいで安全な水」となり各家庭や学校・事業所などへと送られてきます。その水を台所や風呂・トイレなどで使用して汚れた水が、下水道管を通り荒川右岸下水道・新河岸川水循環センターで下水処理をして新河岸川へと放流されています。

大久保浄水場では「上手な水の使い方」や「川

の水を浄化処理する仕組み」について説明を受けました。また、荒川右岸下水道事務所では「汚水や雨水を下水処理して川へ戻す仕組み」や「汚泥を利用して焼却処理しセメント材料の資源にする仕組み」について説明を受けました。

今の時代、水道の蛇口をひねるだけで勢い良く出てくる水を「私たちは無駄に使っていることはないか？」と水の大切さを考えさせられた一日になりました。

ちなみに、我が家では雨水（天からの恵み）を大きな水槽に溜めて庭のガーデニング作業やゴミ集積所の清掃作業などで使用するエコ活動を行っております。



「食品ロス」削減にご協力ください

資源循環推進課

食品ロスとは、まだ食べられるのに捨ててしまう食品のことです。日本で発生する食品ロスは、年間約621万トン（平成26年度）。これは、国連WFPによる世界全体の食料援助量320万トン（平成27年度）の約2倍です。国民1人1日当たりだと、おおよそお茶碗1杯分の食品ロスを出している計算になります。もったいないことです。

食品ロスを減らすことは、この「もったいない」を減らすだけでなく、可燃ごみの減量にもつながります。食品ロスを減らすために以下のことにご協力をお願いいたします。

- ① 買い物では、事前に冷蔵庫の中を確認してから買い物に行き、使い切れる量を買きましょう。賞味期限と消費期限の違いに気を付けましょう。
- ② 料理では、傷みやすい食品は、早めに使い切

りましょう。食材の保存方法を見直して、長持ちさせましょう。捨てていた野菜の茎や皮を使って料理を工夫しましょう。 ※所沢市では、プロの料理家による、食材を無駄なく使い切るレシピ「トコとん！！クッキング」を紹介しています。

③ 食事では、作ってくれた方に感謝して、残さず食べましょう。食べきれなかった料理は、保存して早めに食べましょう。外食では、食べきれぬ量を注文しましょう。

※所沢市では、食品ロス削減に取り組む市内の飲食店等「食品ロスゼロのまち協力店」を紹介しています。



所沢市HP
「食品ロスを減らしましょう」

「プラスチック」の名称が変わります

資源循環推進課

平成30年4月から、ごみの収集品目名「プラスチック」が「容器包装プラスチック」に変わります。これまでと排出方法に変更はありませんが、以下のことを明確にするため、名称変更することになりました。



「容器包装プラスチック」とは、プラスチックで作られたもののうち、商品を入れたり、包むのに使われるプラスチックだけを指します。「プラマーク」の記載が目印です。

ところで、プラスチックで作られていても「容器包装プラスチック」に該当しないものは以下のようなものがあります。

例) ・プラスチックの食器・プラスチックの植木鉢・ポリバケツ・プラスチックケース類・プラスチック製のおもちゃ

これらのものには、「プラマーク」がついていません。「破砕ごみ類」へ排出をお願いします。

集められた「容器包装プラスチック」は、日本容器包装リサイクル協会でリサイクルされ、プラスチック原料・パレット等に生まれ変わります。なお、汚れたままだとリサイクルできませんので、汚れを落としてから排出いただきますようお願いいたします。引き続き「容器包装プラスチック」の分別にご協力のほどお願いいたします。

環境とエネルギーの未来展 “エコプロ2017”

編集委員長 荻野 義雄

環境とエネルギーの未来展“エコプロ2017”は、「持続可能な社会 実現に向けて」と題して平成29年12月7日～9日、東京ビッグサイトで開催されました。

所沢市環境推進員連絡協議会では、環境推進員の研修の一環として今年は、各地区から推進員32名が参加。グローバルな視点で環境問題について勉強してきました。

会場は、全国から官公庁、企業、大学・教育機関、学術団体、各種環境団体が各ブースで展示活動を行っています。「企業が取り組んでいる環境活動」「棚田保全と活用に取り組む関係者のパフォーマンス」「環境モデル都市が推進してきた環境問題や人口減少、高齢化の問題解決に向けた先進的な取り組みの展示」や「地球温暖化の切り札と称して、二酸化炭素を回収して地中深く封じ込める技術をもった企業の発表」など、それぞれの問題意識をもって未来を見つめての真剣に取り組んでいる現状を垣間見る事が出来ました。



編集後記

平昌冬季オリンピック・パラリンピックの興奮、さめやらずと言ったところです。

僅か数秒のレースに・・・メダルという目標にむかって何年にわたっての想像もつかない切磋琢磨に胸熱くなるものがありました。誰もが今ある自分は、多くの人の支えがあったからと瞬時のインタビューに応えています。“自分の言葉”をもって感謝の言葉を何のてらいもなく発しています。支援者とアスリートの互いの想いが太い糸で紡がれた「絆」となり目標に向かってのたゆまない努力が成果となったのでは…

感動をありがとう！

編集委員（◎印は委員長）

◎荻野 義雄（三ヶ島）、宮高 隆（並木）、
久下 紀世（新所沢）、新居 亨一（山口）
事務局：所沢市 環境クリーン部 生活環境課

☎04-2998-9370

所沢市のホームページ

<http://www.city.tokorozawa.saitama.jp/>

トップページ ⇒ くらし ⇒ 環境・みどり

⇒ 環境 ⇒ 環境推進員連絡協議会についてを選択してアクセスしてください。